



2020年4月2日

報道関係者各位

全日本自動車産業労働組合総連合会
事務局長 金子晃浩

2020年総合生活改善の取り組み 回答状況について

2020年総合生活改善の取り組みについて、回答状況を集計しましたので、その結果を報告します。(4月2日現在、1,084単組中449単組(41.4%)で解決済み)

◆ 全体の受け止め

- 日増しに足下の交渉環境が悪化する中でも、各単組の踏ん張りにより「最大限の回答」を引き出すことができた¹と受け止め。
- とりわけ月例賃金においては、全体を通して昨年同時期並みの水準を獲得できていることや、中小単組の獲得水準が大手を大きく上回っていることは一定の評価をしたい。
- また各単組が自らの「目指すべき賃金水準」「目指すべき働き方」の実現に向けて取り組んだことで、「賃上げによる人への投資」の流れを継続できたことは大きな成果である。
- 総じて、2020年総合生活改善の取り組みを通して、自動車総連全体として底上げ・底支え、格差是正に向けた取り組みを一定程度進めることができ、自動車産業の新たな時代に繋がる着実な一歩を踏み出すことができたと受け止めている。

◆ 月例賃金

- 個別賃金は、717単組が要求し、現時点で85単組が回答を引き出している。
- 平均賃金は、賃金カーブ維持分と賃金改善分を合わせた引き上げ額全体の平均は4,927円となっている。また、賃金改善分の平均獲得額は1,213円となっている。
- 賃金改善分の獲得状況を見ると、299人以下の中小単組の獲得水準は1,440円。大手単組の1,082円を大きく上回っており、中小単組の奮闘ぶりが数字に表れている。
- 加えて、個別課題の解決に向け、賃金のあり方、働き方を含めた中長期的な課題を協議することを確認した単組等、今後の継続的な取り組みに繋がる動きが着実に見られる。

◆ 企業内最低賃金

- 8単組で企業内最低賃金協定の新規締結を実現。また131単組が水準引き上げを行い、その平均額(単純平均)は164,528円と、昨年を大きく上回る状況である。

◆ 年間一時金

- 平均獲得月数(単純平均)は4.60ヵ月であり、組合員の一年間の努力・頑張りなどに報い、また組合員の安心・安定感の確保に繋がる回答引き出しとなっている。

◆ 働き方

- 職場全体の生産性向上、恒常的な長時間労働の是正、多様な働き方の促進等、各労使の実態に即した深い話し合いが行われ、今後の具体的な取り組みにも確実に繋がっている。

◆ 非正規雇用で働く仲間

- 時給や日給の有額での回答引き出しなど、自動車総連全体の底上げに寄与し、労働組合の社会的役割を果たす結果を引き出している。(現時点時給引上げ平均14.7円)

以上